

巻 頭 言

教職課程センター所員 北川 浩子

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行で、教職課程センターもその対応に追われることになりました。誰もが予期しなかったこの事態に対して、授業の運営はもちろん、実習系の科目をどうするのか、新体制のもとでの運営方法など、この未曾有の事態にどう立ち向かえば良いのかを模索する日々が続きました。

これまでもオンライン授業の導入については、断片的に議論がありました。ところが、教職課程全体での実施となると、考慮すべき点が多々ありました－教員の授業方法、学生の情報利用環境の差、感染拡大の状況など－そして最大の懸念事項は「授業の質をどのように維持していけば、学びを止めずに済むのだろうか」ということでした。決定的な解答が存在しない中で、暗中模索してきた取り組みの様子の一部が第5号の特集記事から御覧いただけたと思います。

採用試験の結果についても、例年並の結果を残すことができました。コロナ禍でも合格に向けて取り組む学生、それを支援する熱意ある教員・相談員の取り組みが、結実したものだと言えます。そしてこのことは、本学の教職課程の持続可能性を裏付けているとも言えるでしょう。前号の巻頭言でも述べましたように、このような非常事態であっても、本学の教職課程が着実な成果を出しているのは、教職課程センターが設置されたことに起因しています。

最後になりましたが、教職課程センターの活動を今後も充実させていくために、皆様方のご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。